

## やまばとのブランディング

(一)

冒頭から聞きなれない言葉が登場し恐縮ですが、ブランディングとは、ブランドを広く浸透させるための活動を意味します。例えば、「この福祉サービスは、断トツにいい」、「この施設を絶対に利用したい」、「この法人を応援したい」というふうな、プラスの印象や評価、好感度が多くの人々の間に共有され広がることを意味します。

ブランド(高級品/質が良いという評価や認識)を高めるための努力は、事業所や企業にとって絶対必要と言われますが、福祉分野におけるブランディングは、周囲の人々の好感度を高めることが先ではなく、人々のニーズに 대응していくことが最優

先されるべきことと言えます。

今では日本で最大の福祉事業体の一つになった聖隷福祉事業団も、その始まりは、家族からも見放された結核患者を助けることでした。創設者の長谷川保先生たちは「野垂れ死にするもよし」という覚悟で懸命に働かれましたが、地域住民からは猛反発が起き迫害されたりもしました。それはブランディングの歩みとは真逆だったと言えます。牧ノ原やまばと学園の歩みも、



発行  
 社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園  
 〒421-0412 静岡県 牧之原市 坂部 2151 番地 2  
 TEL:0548-29-0221 FAX:0548-29-0157  
 E-mail:honbu@yamabatogakuen.jp  
 http://www.yamabatogakuen.jp/  
 郵便振替 00800-6-14641  
 頒価年額 600円(千共)1部 50円(千共)  
 (送料・消費税込み)  
 寄付金の一部に購読料を含む場合があります。

これと共通の点があります。人の評価よりも、「まず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、全てのものは添えて与えられる」という聖書の言葉に信頼して、当時侮られていた知的障碍者の人権回復と幸せな人生のために努力しました。周囲の人たちからは冷ややかな目で見られたり敬遠されたりもしましたが、徐々に誤解が解けて協力して頂けるようになりました。

そういう歴史を知ると、福祉分野におけるブランディングは、地域の好感度を上げようと躍起になることではなく、むしろ何よりもまず福祉従事者としてなすべきことに力を尽くすこと、具体的には、人を大切にすること、苦しんでいる人たちが希望を持つて生きられるよう、個人的に励ましたり、つながりを持ったり、また制度の面でも改善していく、といったことではないかと思わされます。

(二)

二〇二〇年度(昨年四月〜本年三月末迄)も、まもなく終わろうとしています。当年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、創立五〇周年記念式典・祝賀会を

初め多くの計画を中断することになりました。が、そんな中でも、「記念誌」を、予定よりやや遅れたものの、発行できたのは幸いです。春の全体職員研修会では、これをテキストの一つとして活用することになっています。

実は、「記念誌」は、当初は、後輩職員たちのための「研修用テキスト」にすることが目的でしたが、記念誌編纂委員の間で話し合った結果、「一般書籍」として世に出すことになりました。記念誌には、これまで当法人で講演して下さった外部の先生方の講演(要旨)や、保護者の皆様、職員たちのことばも掲載されていて、それらが内容を豊かなものにしてきています。本のタイトルは、『それでもともに歩いていく』で、この三月末迄には職員や関係者の皆様に届けられ、同時に、一般の販売ルートにも乗ることになります(発行は、『株』ラグーナ出版)。

(三)

創立五〇周年のこの年、いつもより過去を振り返ることが多かった私は、共に歩んで下さった皆様と多くの方々に感謝すると同時に、十年前、創立四〇周

年記念式典において掲げた目標が十分達成されていない現実にも気づかされ、改善に取り組みねばと改めて思わされています。十年前、何を述べたのか、ごく一部を要約してご紹介します。

には、未熟な人間の集まりですので、日々、失敗の連続にもなるでしょうが、これまでの歩みと同様、神様に助けられ、お互いの弱さを許しあつて、前進していきたいと思えます。今後、大切にしたこと

下へと一方的に伝えるのでもなく、職員たち同士で考え、より良い方法を見出し、管理者たちも提案に耳を傾け、意見交換し、みんなで、「そう、そう、それだ」と共鳴できる回答を見出すことが、最も大事だと思つています。

いる人たちが見えにくくなつていくが、介護職員は、仕事を通して構築したつながりをきっかけに、「あれ？おや？」と気づき、近寄つて、「大変でしたね」とねぎらい、寄り添うことができる。このようにして、早めに取り残された人に気づき、人と人の関係をつなぎ、地域のセーフティネットの網の目を一つずつ編んでいくことで、共生社会の再構築が実現されていくのである。

やまばと学園は、やまばと成人寮の活動を終結し、三つのケアホームを始めました。新しい歩みですが、これらは、牧ノ原やまばと学園の最終的な目標ではなく、むしろ、より大きな目標に至る一ステップにすぎません。大きな目標は、一言でいえば、共に生きることであり、障害者も高齢者も、地域の人々も、一緒に

①一人一人をかけがえのない大切な人として重んじ、ともに生きる場を愛の満ちるところとする

とところで、「地域共生社会」は、今では国の福祉施策になっており、どの福祉団体もその方向に向かつて努力していますが、(ホッとスペース中原代表で、当法人の理事でもある)佐々木炎牧師は、その担い手として、「介護職員の存在は極めて重要」と述べていますので、その内容のごく一部をご紹介します。

文中の「介護職員」を「福祉従事者」と置き換えてもいいのではと思いますが、いざれにしても、福祉職員の大きな役割と価値を再認識させてくれます。

形成していく、ということですが、どんな人間も排除されない社会、ともに生きる社会を形成していきたいというのが、私どもの願いです。

② 思想信条の違う人々や、伝統や・習慣の違う人々、地域の人々をよく対話し、謙虚に学んでいく。

多くの困難者は、相談する人も、助けてくれる人もなく、深い孤独と失望の中にいる。それは、その人自身の責任だと切り捨てないで、その人なりの思いを受けとめ、生きるこ

そう、という使命を与えられているわたしたちですから、これからも、共生社会形成のため、抽象的な目標や、漠然とした計画を、明確化し、共有し、具体的に達成可能な実践上の仕組みに代えながら、みんな、真のブランドディングへの道を歩んでいきたいと思つていきます。

最も身近な所から

③ 傷ついた人や苦悩する人に寄り添つて歩む。

来事は、わたしたちに、いったい何を告げているでしょうか。

〈理事長〉長沢道子

共生社会への願いは、まず、最も身近な所から実践されるべきです。

④ 傷ついた人や苦悩する人に寄り添つて歩む。

すでに改善されたことも多々ありますが、より良い歩みをしていくために、過去からしっかりと学ぶ必要があるでしょう。

現代社会は、人と人のつながりが薄れ、苦境に

当法人の一つ一つの事業所において、障がいを負う人々や、高齢の方々が本当に大切にされ、ご利用者も職員も、お互いの存在を喜びあえるような、笑顔と希望に満ちた場となるよう努力したく思います。現実

出すのではなく、また、上から

の「支援の網の目のひとつ」

現代社会は、人と人のつながりが薄れ、苦境に

出すのではなく、また、上から

の「支援の網の目のひとつ」

現代社会は、人と人のつながりが薄れ、苦境に

現代社会は、人と人のつながりが薄れ、苦境に

出すのではなく、また、上から

の「支援の網の目のひとつ」

現代社会は、人と人のつながりが薄れ、苦境に

現代社会は、人と人のつながりが薄れ、苦境に

出すのではなく、また、上から

の「支援の網の目のひとつ」

現代社会は、人と人のつながりが薄れ、苦境に

現代社会は、人と人のつながりが薄れ、苦境に

## 我が家のセラピー犬

佐藤 恭子

私は、動物病院協会(JAHA)という団体のアニマルセラピーのボランティア活動に参加しています。高齢者施設や病院、学校等に自宅で飼っている犬と一緒に訪問するボランティア活動です。

この一年は、コロナの影響で活動がすべて中止となってしまいました。したが、我が家で飼っているセラピー犬のことを書かせていただきます。

現在セラピー犬として活動している我が家の犬は、子犬の時に鹿児島県与論島の保健所に保護され、神奈川県保護団を通して我が家に来ました。雑種の雌犬で名前はメルと言います。

我が家には当時すでにセラピー犬として活動しているミミという雑種の犬がいました。メルは二頭目のセラピー犬となったわけです。ただ、セラピー犬になるには向き不向きがあります。保護犬のメルは性格は果たして向いているのか否かは、わかりませんでした。偶然にもメルは、先代のミミよりはるかに向いている性格でした。

私の所属団体のセラピー犬は、盲導犬などの介助犬とは違い、一般家庭で飼われている犬とその飼い主(ハンドラー)がペアになり活動します。犬は、必ず飼い主と一緒に訓練します。

犬の訓練方法は基本的に褒めて育てる方法で(陽性強化)、嫌がることを無理強いしない、アニマルウェルフェア(動物福祉)を大切にしています。飼い主と犬との信頼関係ができていくことが大切です。

最近では人の子育てにも褒めて育てることの大切さが言われていますが、人の子育てと犬の訓練は共通していることが多いように思います。良い行動ができた時に褒められたら、喜んでその良い行動を覚えます。メルは「いい子」と言われるのが大好きです。よく出来たら大好きなおやつをもらえて、色々なことができるようになりました。まだ毎日勉強中です。

アニマルセラピー活動の内容は、私達ボランティアがそれぞれ自宅で飼っている犬や猫などの動物を

連れて施設や病院を訪問し、犬猫を抱っこしていただいたり、撫でてもらったりして、犬猫の温もりやもふもふの毛を肌で感じてもらいます。また、芸達者な犬は芸を披露して笑ったり、歌ったり、一緒に遊び、レクリエーションの時間を楽しみます。

メルは、この活動が大好きです。我が家でも出かける準備を始めると「早く行こうよ」と嬉しそうにそわそわします。おやつがいっぱいもらえるのも嬉しいのか「おやつがあれば何でもやりますよ」と言わんばかりに張り切ります。もちろん病院などでは、おやつが使えない所もありますが、私と一緒に活動することを楽しんでいきます。

月一回定例で訪問している高齢者施設では、動物の人を笑顔にさせる力の大きさをいつも感じます。普段手をあまり動かさない方が、犬を抱いたり、撫でたり、時には施設の職員の方が驚くような自発的な行動や表情が見られることもあります。

昔、犬を飼っておられた方などが「お手」と言って手を出したりすることもあり、メルがそれに答えてお手をすると、最高の笑顔になります。またある時は、投げたボールを犬が捕って来たり、フラフラを犬がぐぐり抜いたり、飛

び越えたり、ボールを投げたり、フラフラを持ってたりと機能訓練にもつながることをしていただくこともあります。今はお仕事中心というモードでじつと寄りそって撫でてもらう時と、へらへらと尻尾を振って撫でてと寄って行く時、それぞれケースバイケースで一番喜んでいただけるように気を配ります。皆様に幸せな気持ちになつて頂くには、犬も人も楽しく活動することが必要だと思っています。

最近、犬が飼い主と見つめ合っている時、人も犬もお互いに幸せホルモンともいわれるオキシトシンが出てくるということが、科学的に証明されました。またセラピー活動中のクライアントと犬をそれぞれ調べた結果からもオキシトシンの上昇がみられたという報告があります。アニマルセラピーが、なぜ効果があるのか。科学的なデータからも証明されてきています。私も活動を通して、多くの楽しい時を経験してきました。確かに疲れする事もありますが、それ以上に満足を得ることが出来ます。

私は、コロナ禍でも家で犬と触れ合う事でストレスが解消できているのだと感じています。

一日も早くこの状況が収まり日常に戻りますように祈ります。

### わかば、もくれん十年を振り返って

わかば・もくれん 杉本豊規

印象に残っている出来事は、希望寮より異動後、何もかもが初めて不安を抱えながら働いていたある朝、もくれん利用者Mさんがベッド上より起き上がれずぐったりとしていたことです。人生で初めて救急車を要請しました。

また、自分の結婚式直前にご利用者Fさんが誤嚥性肺炎で入院。この時は、救急車要請も慌てることなく行うことが出来ましたが、結婚式を中止しようかと考えたほどです。

この十年で一番心残りなことは、ご利用者Mさんの世界です。最後はホームでのターミナルケアとなり、「もくれん」で酸素吸入しながら、訪問看護を利用し、SPONS(酸素飽和度)の観察を行ったりしました。

高齢者部門への入所手続きを進め始めるようになった矢先、自宅へ帰ると、Mさんが急変したとの連絡。あわててもくれんへ戻ると、救急車や消防車が玄関に止まり、救急隊員が蘇生に全力をつくしていました。

榛原病院へ高杉施設長と同行。ご家族の到着を待っている際、訪問

看護のナースより「お疲れ様。もくれんさんはよく頑張ったよ」と肩を叩かれ、涙が自然に流れました。

翌日の4月14日8時半、ご家族に見送られ逝去されました。他にもつと何か出来ることがあったのではと自問自答し、後悔しか残っていません。しかし、悲しみに浸る余韻もなく新規利用者の受け入れを準備する日々となりました。

もくれん利用者は、平均年齢が63歳と高齢の方が多くです。食事制限などもあり一つ一つの行事がこれで最後の行事になってしまうのではという不安を抱えながら、毎年、ご利用者の希望を聞いて季節行事を実施しています。



ご利用者の高齢者施設への移行を考えることが、今後のわかば・もくれんの課題となっています。

コロナウィルス感染拡大に伴い、帰宅もままならない昨今、少人数施設の良さを活かして、向日葵のように明るい、笑顔あふれるホームにしていきたいと思っています。

(サービス管理責任者)

### 高齢者施設から障がい者施設に移って

ワークセンター希望の家 伊藤 奈津子

私が最初に就職したのは、ワークセンターコスモスでした。その後数回異動を経験しました。

二〇一四年、聖ルカホームに異動。高齢者施設は初めてで、実際に介護現場で働き始めると、先輩職員さんの動き、声掛け、接し方等をメモに取るなど、覚えることに必死で、笑顔がなくなっていました。

落ち着かず歩き回っている方、荷造りし家に帰ろうとする方、部屋で探し物をし、誰かに取られたと不安になる方々に対し、私は「大丈夫です。安心してください」と、繰返し声かけすることができました。

介護職は向いてないのではないかと挫折しそうなこともありましたが、悩みを相談できる同僚達のおかげで、続けることが出来ました。

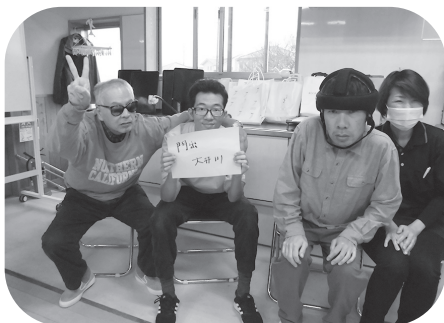
仕事が忙しく大変な時でも、励まし合い協力しながら、何かを成し遂げると、達成感や楽しさを味わい、また、ご利用者一人一人の笑顔を見ると、やりがいを感じたりしました。

昨年四月、ワークセンター希望の家に異動になり、もうすぐ一年が経

とうとしていきます。仕事の進み具合や、利用者さん同士の関係調整が大変ですが、出来るだけ利用者さんの意向に添えるように思っています。単純作業を何時間も丁寧に続ける持続性と正確性は、彼らでなければ出来ないと思うことも多く、皆が得意分野を発揮し、力を合わせて一つの作業を成し遂げていく様子は、素晴らしいと思います。

今年の施設長からの年賀状に、「経験や知識が活かされ仕事されたことを感謝します」と書いてあり、仕事を続けてきて良かったと涙があふれました。素晴らしい仲間や先輩に出会えたことに感謝して、今自分にできる事をしていきたいと思えます。

(生活支援員)



### ご利用者の笑顔のために

希望寮 塚本真由子

一昨年五月に次女を出産し、一年間育児休業をいただいております。復帰してから半年以上たち、育児や家事・仕事にと、バタバタしながらも充実した日々をおくっています。

約一年ぶりに会ったご利用者の皆様。変わらない素敵な笑顔がそこにあつて、とてもうれしかったです。中にはうれしい変化があつたご利用者もいます。一年前はベッド上での生活が多かつた方が、車椅子で自走できるまでになつていました。最近はや言葉も増えたと感じていて、とてもうれしく思います。食事は、ご利用者の皆様が楽しみにしているものですが、厨房は、皆さんの建物の一角にあります。調理してくださっているのは、ウェルビーフードシステムの皆様。ご利用者のことを細やかに気遣つて

くださり、いつも希望寮や皆さんが、わかば・もくれんにおいしいお食事を届けてくださいます。ウェルビーフードシステムの皆様には、職員一同心より感謝しています。

皆さんの建物は、旧成人寮。やはり、建物の老朽化や設備の不具合があり、早急に対策を講じる必要がでてきます。今後厨房をどうしていくのか、どうしたらご利用者最大の楽しみである「食」を守ることができなのか、課題は山積みです。厨房についてはこれから協議を重ねていくことになりましたが、ご利用者にとって一番良い方向となるように、ご利用者の笑顔のために、考えていけたらと思います。

(管理栄養士)



### 夢を追いかける

加藤繁男  
加藤光枝

聖ルカホームの跡地にオリープの木を植えたいという夢を、長澤理事長のご厚意により実現できました。

それからというもの、夢に向かいまっしぐら。大勢の人に声をかけていただき、視察や研修会等に参加するため各地に出向きました。そこで出会った方々が遠方よりオリープを見に来たり、研修会で知り合った大学教授の指導を受けることになったりと、オリープの知識だけでなく視野も広めることができました。人と人との出会いが、夢を追うための大きな手助けになりました。地元でも少しずつではありますが、見学したいという人が増えつつあります。

オリープ実摘みの時には、やまばとの事業所の方々やお年寄りをはじめ、多くの人が集まっていたいただきま。はち切れんばかりの笑い声、



これでもかという笑顔がありました。青空に向かい大きく手を伸ばし、空気を吸い込む、これほどのごちそうはないのではと思うくらいでした。風に揺れ、オリープの木も踊っているようにも見えました。

不思議なオリープの力でもっと大勢の人が集い、また行きたいと思える幸せにあふれた場所になってほしいです。これからも人と人との出会いを楽しみながら、よき理解者とともにオリープオイルを自分たちの手で搾るといふ次の夢に歩みを進めたいです。

(オリープ園管理者)



# 歩みのあと

(1月1日～1月31日)

●**全体的なこと**(一)は実施日  
▼**施設、特に入所施設ではコロナ感染予防のため気を遣う**日々が続いています。  
外来者が「居室へ入ることは禁止」です。  
●**個別のニュース**  
《**法人**》さざんかと真菜建設に  
関する資格委員会を開催。  
(13)／さざんか基本設計審査。  
(15)／建設用地に関する  
土地利用審査会。(25)  
《**垂穂寮**》1月6日、職員同居  
親族に新型コロナウイルス検査陽  
性者が出て緊張。追加PCR  
検査で陰性と判明。職員もP  
CR検査で陰性だったので安  
堵。管理医のアドバイスに基づ  
き6～19日は会議出席の中  
止等、感染予防に努めました。  
《**みぎわ**》年度途中で畠主任が  
垂穂寮へ異動となり、野ばら  
から杉山主任が着任。(1)  
／年末年始とほとんどの方に  
帰宅を自粛して頂き、雑煮や  
おせちを食べました。  
《**野ばら**》節分の会。(3)／苦  
情2件・事故2件。  
《**やまばと希望寮**》創設期より  
共に暮らした松浦良行さんが  
入院先でご逝去。／朝より発  
熱者あり、PCR検査(陰性)。  
検査後も熱引かず、別棟で隔  
離し家族が対応。(27)／1階  
娯楽室仕切り、2階LDパー  
ティション設置工事(22)

《**わかば・もくれん**》もくれんご  
利用者の支援について、成年  
後見人より苦情があり、島田  
市からの聴取もありましたが、  
後日その意図ではなかったと  
の連絡がありました。／夜勤  
専門員希望者実習中。  
《**さざんか**》建設工事資格委員  
会。(13)／基本設計審査。(15)  
《**カサランカ**》ご利用者の職  
業センター判定に付添う。(7)  
《**希望の家・ふれあい**》指定更新  
申請書を県へ提出(1月末)  
《**希望の家**》1月29日付で1名  
高齢者施設へ(23年間通所)。  
病院からの転出でお別れ会も  
できず、残念でした。  
(ふれあい)外出行事を取りや  
め新年会。昼食はおせちを思  
わせる豪華弁当。(22)／予定  
していた地域交流会を中止。  
《**コスモス**》職業指導員や生  
活支援員1名(5時間パー  
ト)募集中。／午前中「買  
い物訓練」。事前にご利用  
者ご家族で話し合い、千  
円で何をかうのか計画を  
立て、その計画に沿って買  
い物。午後は、ワークセンターな  
のはなと合同で、起震車体  
験。いつもの地震避難訓練  
では想像出来ない揺れを体  
験でき、貴重な経験。(27)  
《**なのはな**》新年お楽しみ会。  
(4)／起震車体験 避難訓  
練。(27)

《**あさがお**》青野先生によるリ  
フレッシュ体操(12)  
《**WOCやまばと**》作業棟はL  
ED照明に交換。棟が明るく  
なりました。／いわきゅうの給  
食で自分の好きな献立を注文  
(26)  
《**かたくりの花**》新年会と成人  
を祝う会。重症心身障がいの  
娘さんを祝って、お母さまが着  
物を用意し、職員が着付け化  
粧等行う。コロナ感染予防の為  
お母さまは参加できませんで  
したが「心温まる会」とも嬉  
しい」と言葉。お母さまから  
ご本人宛てた手紙に、職員一  
人も感動しました。(15)／岩  
本造園2名様が庭木の手入れ  
感謝。／防災訓練で昼食は防  
災食。ご利用者の感想は「おい  
しい」でした。(28)  
《**さくら**》館内自動火災報知機  
全取替工事。(8)  
《**マーガレット**》カフェマーガレット  
開店。ウェイター役・ウェイトレ  
ス役を中心にお店を運営。メ  
ニュー表から好きなドリンクを  
選び、コースターの裏に書いて  
あったおみくじを発表し合  
いました。(12)  
《**レタスクラブ**》利用始めの日に  
書き初め(4)  
《**生活支援センターやまばと**》  
牧之原市計画策定委員会  
(2)／圏域運営会議(12)  
《**聖ルカホーム**》JAハイナン女  
性部よりマスク売上金のご寄  
付。／Mo面会を実施中。  
《**グレイス**》地域貢献の一環とし  
て坂部れあいサロンにて遊び

り。  
《**相寿園**》初詣。手を合わせて  
静かに祈る利用者の皆さんの  
姿が印象的でした。(14)／新  
春かるた大会。大変盛り上が  
りました。審判役の職員は、  
クレーム対応にヒヤヒヤ。(15)  
《**ぎんもくせい**》静岡給食様  
(小林氏、平賀氏)来訪。次  
年度契約更新について。(9)  
《**真菜**》開所当初からのご利用  
者K.Tさん、聖ルカホームに  
入所。(13)  
《**すずらん**》坂部れあいサロ  
ンにて遊びリテーション。(15)  
《**さくらん**》Mo研修。内容は日  
常生活自立支援事業について。  
(4・8)／ほのぼのシステムの  
タブレットアプリの説明会。(8)  
《**シャローム**》坂部れあいサロ  
ンにて遊びリテーション。(15)  
《**オリブ**》残業時間が88時間  
を超え、検討が必要。評価につ  
いて、市と打ち合わせ。  
(ぶどうの木)初詣のおみくじ代  
わりにダーツを投げ、新年の  
予想。一人一人が新年への思い  
を話しました。／アンケート調  
査表をご利用者ご家族へ配  
布し、今後の参考としました。  
**ボランティア活動**  
★活動者名敬称略、順不同  
個人 内藤させ、大川原富美子、  
伏見玲、殿村隆夫、小島茂美、  
大塚春美。  
団体 岩本造園(庭木の手入  
れ)、星いきいき財団、なでしこ  
の会。

## 寄付金状況報告

(単位：円)

	寄付金	指定寄付金	誌代	合計
4月～12月	11,196,832	0	1,954,250	13,151,082
1月	696,216	0	134,032	830,248
計	11,893,048	0	2,088,282	13,981,330

### あとがき

☆表紙の写真は、わかば(もくれん)のご利用者、パーベキューで焼いたさんまを前にご満悦の笑顔です。  
☆佐藤恭子様は、元教師で、学校法人平和学園「アレセイア湘南中学・高等学校」などで理科や生物を教えました。セラピー犬とのボランティア活動は、その頃から続いています。  
☆次回4月号からは、偶数月に、隔月に発行されます。バックナンバーをホームページに掲載しましたので、ご利用ください。  
(一)